

事業報告書

(平成29年度)

社会福祉法人 相模翔優会

特別養護老人ホーム ル・リアンふかみ

<目 次>

はじめに	3
1 理事会・評議員会開催状況	4
2 特別養護老人ホーム	6
(1) 利用者の状況とサービスの提供	6
(2) 介護サービス課 総括	8
(3) 各ユニット報告	8
(4) 短期入所生活介護	13
(5) 利用者の健康状況	15
(6) サービスの質の向上	17
ア 相談課報告	17
イ 機能訓練	18
ウ 食事の状況	18
3 委員会報告	19
(1) 安全衛生委員会	19
(2) 介護サービス委員会	19
ア 食事・栄養	19
イ 排泄	20
ウ 入浴	20
エ 感染症・褥瘡予防	21
(3) 人権擁護	21
(4) 総務委員会	23
ア 防災	23
イ 物品	24
(5) 施設活動委員会	25
ア 研修	25
イ 行事企画	30
ウ ボランティア活動	31
4 職員関係	31
(1) 職種別配置構成	31
(2) 資格取得構成	31
(3) 実習・見学・講師派遣	32

は じ め に

ル・リアンふかみ

施設長 小 泉 昇

平成 29 年は施設収益は、前年を上回ることができ、目標を達成することができました。これも職員一同の頑張りがあってのことと思います。しかし、支出面では派遣職員の増加にもとなう派遣費用の増加が改善されませんでした。29 年下半期には、介護職員の核となる職員の採用から、年度末にかけて職員の定着率の向上がみられるなど 30 年度は明るい見通しが立つなど、29 年度の収支改善の遅れを取りもどすことができると考えます。

平成 29 年度施設事業報告にあたり、平成 28 年度にあった課題の改善が 29 年度の重要な事項と言えます。特に苦情や不適切な介護の報告・発生等の対処及び防止が急務と言えました。29 年度は苦情件数の減少など良い方向にはなっていました。しかし、苦情解決委員会への対応に時間がかかりすぎるなど改善の余地があり、次年度の課題とさせていただきます。情報開示については 29 年度に初めて家族会を開き、現状の説明とご家族からの意見をいただくことができました。今後も継続的に家族会を実施いたします。また、ホームページや広報誌の活動ができていなかった点も次年度の改善とさせていただきます。

介護サービス事業については、各ユニットからご報告をさせていただきますが全体的に人材不足によるサービス低下は否めず、利用者及びご家族にご迷惑をおかけいたしました。しかし、29 年には施設内庭園が完成し、花壇の整備により散歩などのボランティアの導入や、夏祭り及びバザーの実施など近隣住民の方々のご協力を得ることは一つの成果としてご報告させていただきます。

職員定着率の向上については、職員ヒヤリングが行えなかったこと、また、会議の在り方についてもユニット単位での開催を増やし、サービス向上に努めてまいります。職員研修についても 29 年度の反省から 30 年度は施設内外での研修を計画的に実施していき、カリキュラムに基づき新人教育のみならず、経験者、管理職を含めた部門ごとに行ってまいります。

最後に法人運営につきましても、理事会・評議委員会へは施設運営報告を行い助言を求めてまいります。30 年度は 29 年の反省に立ち、運営を進めてまいります。

1 理事会・評議員会報告

(1) 理事会開催状況

第1回理事会	平成29年	5月27日
第2回理事会	平成29年	6月17日
第3回理事会	平成29年	10月2日
第4回理事会	平成30年	1月18日
第5回理事会	平成30年	3月12日
第6回理事会	平成30年	3月23日

理事6名 監事2名

理事会

回	開催年月日	開催	出席者数	承認・決議事項
1	平成29年 5月27日		理事5名 監事2名	第1号議案 平成28年度事業報告について 第2号議案 平成28年度決算報告について 第3号議案 監事監査報告について 第4号議案 施設庭改修について 第5号議案 次回理事会日程について 第6号議案 給与規定改定について 報告事項 施設運営状況について
2	平成29年 6月17日		理事6名	第1号議案 理事長選任について
3	平成29年 10月2日		理事5名	第1号議案 理事長療養期間中の業務執行理事選任について 第2号議案 就業規則の一部改正について 第3号議案 経理規程の一部改正について 第4号議案 神奈川県監査改善報告について 報告事項 施設運営事項について
4	平成30年 1月18日		理事4名	第1号議案 第一次補正予算について 第2号議案 平成30年度借入予定について 第3号議案 請求・記録システム契約変更について 審議事項 定款変更について

				役員報酬改定について 報告事項 施設運営状況について
5	平成 30 年 3 月 12 日	ル・リア ン会議室	理事 6 名	第 1 号議案 平成 30 年度予算について 第 2 号議案 平成 30 年度借入金について
6	平成 30 年 3 月 29 日	ル・リア ン会議室	理事 6 名 監事 1 名	第 1 号議案 平成 30 年事業計画について 第 2 号議案 定時評議員会・第 1 回理事会日程について パワーハラスメント及び賞罰委員会規程一部変更

評議員会

(2) 評議員会開催状況

第 1 回 評議員会 平成 29 年 6 月 17 日

第 2 回 評議員会 平成 30 年 3 月 10 日

評議員 7 名

回	開催年月日	開催	出席者数	承認・決議事項
1	平成 29 年 6 月 17 日		評議員 7 名 理事 2 名	第 1 号議案 平成 28 年度決算報告について 第 2 号議案 第 5 期理事・監事選任について 報告事項 施設運営状況について
2	平成 30 年 3 月 10 日		評議員 6 名 理事 1 名	第 1 号議案 平成 30 年度予算について 第 2 号議案 平成 30 年度運転資金借入について 第 3 号議案 役員報酬規程一部改正につて 第 4 号議案 定款一部変更について 報告事項 平成 30 年度事業計画について

2 特別養護老人ホーム

(1) 利用者の状況とサービスの提供

ア 要介護度別

平成30年3月31日現在

区 分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計 (人)
男	0	1	5	4	3	13
女	2	5	20	31	18	76
計	2	6	25	35	21	89

イ 要介護度別延人数 (平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	24
要介護2	8	8	9	9	9	9	9	9	8	8	7	6	99
要介護3	25	24	24	24	24	24	24	23	25	24	23	25	289
要介護4	31	33	35	35	34	31	31	34	33	34	33	35	399
要介護5	19	20	18	19	19	21	22	21	20	18	20	21	238
計	84	87	88	89	88	87	88	89	88	86	86	89	1049

ウ 年齢別

平成30年3月31日現在

区分	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳~	計(人)
男	0	0	2	2	4	5	13
女	0	2	5	18	24	27	76
計	0	2	7	20	28	32	89

※平均年齢 87.6歳

最高齢 106歳

エ 入所前状況 (平成29年度)

区 分	男	女	計 (人)	備 考
在 宅	3	7	10	
グループホーム	0	2	2	
小規模多機能施設	0	0	0	
有料老人ホーム	0	4	4	

高齢者専用賃貸住宅	0	0	0	
老人保健施設	1	4	5	
病院	1	2	3	
計	5	19	24	

オ 要介護度別新規入所者数（平成29年度）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	男性													
	女性													
要介護2	男性													
	女性													
要介護3	男性													
	女性		1				1						1	3
要介護4	男性	2					2			1				5
	女性	1	2	2	1		1				1	1	1	10
要介護5	男性					1								1
	女性			1				1	1		1	1		5
合計		3	3	3	1	1	4	1	1	1	2	2	2	24

カ 退所理由（平成29年度）

	死 亡				長期入院	他施設入居	計
		看取り介護（施設）	看取り介護（病院）				
男性		4	1		1		6
女性		5	7		1		13
合計		9	8		2		19

キ 待機者状況

平成29年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	2	1	9	11	5	28
女性	3	5	16	21	10	55

合計	5	6	25	21	15	83
----	---	---	----	----	----	----

ク 面会状況（平成29年度）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計（人）
延面会者数	357	382	352	433	407	405	2336
区 分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
延面会者数	408	383	371	407	324	362	2255
年 間 合 計							4591

※一日平均 人

（2）介護サービス課 総括

平成29年度は介護職員不足の中、サービスの質の低下をいかに防止するかに注力してしまい、全てが後手に回り、サービスの本質に目を向けることが出来ませんでした。そのような中でも利用者本位にとの気持ちを持ち尽力してくれた職員がいたことは感謝すべきことであり、平成30年度に向けての希望になるかと考えております。平成30年度は職員の定着率と人権擁護意識の向上を目標に努力していきたいと考えております

<施設行事>

5月4～6日	しょうぶ湯
6月23日	居酒屋
7月7日	七夕
8月5日	夏祭り
9月17日	敬老会
10月29日	バザー
11月27日	お寿司屋
12月15日	居酒屋
12月21日～23日	ゆず湯
12月25日	クリスマス
12月28日	餅つき
1月1～2日	初詣
1月3日	お囃子、獅子舞
2月3日	節分
3月2～4日	ひな祭り
3月30～31	お花見

（3）各ユニット報告

<1階青ユニット>

平成29年度目標	① ご利用者のADLを把握し、より良い介助を行っていきます。 ② 生活環境を整えて安心して過ごせるユニットを目指します。
取り組み評価	① 他職種を交えてADLを把握し介助を行いました。 ② 洗濯物等を置いたままにせず、返却できない際には棚などを利用しました
反省点と要因	① 申し送りできちんと伝達出来ていない事で、介助の統一を図るのに時間がかかってしまいました。 ② 居室担当が他ユニットの勤務に入ってしまう、居室の整理整頓が出来ていなく、衣類が何枚も出ていることがありました。
次年度課題	① 引き続きご利用者のADLに沿った介助を行っていきます。 ② ご利用者やご家族のご意見、要望に応えられるよう努力してまいります。 ③ レクリエーション等で日常に変化をつけていけるように努めます
行事	4月たこ焼き、5月母の日、6月父の日、7月フルーツポンチ、8月カキ氷、9月クレープ、10月焼き芋、11月すいとん、12月クリスマス会、1月もんじゃ、2月フルーチェ、3月たこ焼き ※参加者約30名程

<1階緑ユニット>

平成29年度目標	① ご利用者が穏やかに過ごせる環境作りを行なっていきます。 ② ご利用者が安心して支援を受けられるよう統一したケアを目指します。
取り組み評価	① 残存機能を維持出来るよう支援を行い、安心して生活出来るよう職員同士の連携と情報の共有を図れた。
反省点と要因	① 利用者様の体調の変化が激しく、看取りの方の対応もあわせて、医務などとの連携に課題を残す。カンファレンスの数を増やしていくことが必要と考える。
次年度課題	①適宜ユニット会議を実施することにより、職員間のコミュニケーションを図り、ご利用者様の生活の変化に細やかな対応をする。 ②ご利用者が施設での生活を楽しんで頂けるようなアクティビティを企画、実施していきます。
行事	4月たこ焼き、5月母の日、6月父の日、7月フルーツポンチ、8月カキ氷、9月クレープ、10月焼き芋、11月すいとん、12月クリスマス会、1月もんじゃ、2月フルーチェ、3月たこ焼き ※参加者約30名程

<1 階青ユニット>

平成29年度目標	①ケアプランに基づき個別性のあるサービスを提供していきます。 ②ご利用者の意思決定を尊重しご本人のペースで安全に生活を送れるよう環境整備に努めます。
取り組み評価	①居室担当を中心に状態や変化をきちんと申し送り個々のニーズに合った対応をおこなった。 ②同一時間の介助にこだわらず個々に対応。定期的なレクリエーションで日々の生活に変化をもたらせるように対応した。
反省点と要因	① 担当職員が別のユニットにシフトが入っていることが多く、利用者の情報を申し送りできちんとできていなかった。 ②職員の都合での介助や時間になってしまっていることもあり、介助について見直しが必要である。
次年度課題	ユニット会議等を用いて個々の知っている情報等を共有し、介助に生かしていく。
行事	外出レク等を行なっていく

<2 階青ユニット>

平成29年度目標	①職員のスキルアップの為、外部研修等を多く取り組んでいきます。 ②ご利用者個々の気持ちをくみ取り、生活のサポートを努めていきます
取り組み評価	①積極的な外部研修への参加また研修参加の為にシフト作成に関し困難状況と判断、評価に至らず未評価とし記載。 ②居室担当を筆頭に居室の整理また利用者様に定期的なお声掛け等、常時行い状態把握に努め常に適切ケア意識した対応また取り組みを可能な範囲実現とした。
反省点と要因	① 常勤職員の移動に伴い派遣職員の増員・派遣職員の定着率による職員状況また環境により人員不足となり、外部研修等に取り組んだシフトの制作・計画を十分に行う事が出来ず未評価となる ② 常勤職員を中心としご利用者様の個々の心身状態、変化の把握また派遣職員への指導の実施等行う。結果とし一定の利用者の理解・把握に努める事が出来るなど可能としたが派遣職員による不適切な対応と苦情に繋がる状況になるなど新人職員への指導不足を露呈。ご利用者様へのアプロ

	一チと共に新人職員との関係性や利用者情報共有を活かし適切な対応を行えるような配慮が足りず課題が残る。
次年度課題	新人常勤職員また常勤含めご利用様の正確な情報の共有に努め適切な対応・環境の整備を継続的に実施とする。 職員状況の安定に伴い再度外部・内部研修を取り入れた勤務表の考案・作成に努める。
行事	6月、1月 おやつレク

<2階紫ユニット>

平成29年度目標	① ご利用者との関係を深め、ご利用者の視点に立った環境作りを行っていきます。 ② ご利用者の個々の状態を十分に把握し、統一したケアを行っていきます
取り組み評価	① ご利用者の意見を聞きとり装飾や掲示物の位置等変更をしていきました。また居室に少しずつですが写真を飾りご家族にも日々の様子を見て頂ける様工夫していきました。 ② 個々のご利用者のアセスメントを定期的の実施し、利用者理解に努めることができました。
反省点と要因	① リビングは装飾等行ってきましたが談話室は洗濯物や荷物を置いてしまい活用できませんでした。 ② 定期的の実施したアセスメント情報の理解は深められたが、そこから発展した個別ケアに生かしきれませんでした。
次年度課題	・引き続きご利用者とコミュニケーションを図りご利用者が安心して過ごして頂ける様環境づくりを行っていきます。 ・新しい職員増えた為、定期的にユニット会議を行い個々に合ったケアを話し合い統一したケアを行っていきます。
行事	6月、1月 おやつレク

<2階緑ユニット>

平成29年度目標	① 職員間の情報共有を図り、統一したケアを行っていきます。 ② ご利用者一人ひとりのニーズや要望に沿って、その人らしく過ごして頂けるよう、ご本人やご家族とコミュニケーションを密に取り、サービス向上
----------	---

	に努めます。
取り組み評価	上記①、②とも職員の退職、入れ替わりが激しく情報共有、統一したケアを中々行えなかったが職員が安定し始めた第四四半期頃より状況が好転し始めています。
反省点と要因	・職員退職に伴う前任者よりの引き継ぎがうまくいかなかった部分があり、その為特に新人教育において多少の支障が出てしまいました。現在は修正済みです。 ・人員不足もありユニット会議をあまり開くことができませんでした。
次年度課題	・定期的にユニット会議を開催し情報共有を図り、統一したケアを行ってまいります。 ・ユニット内の掲示、飾り付けを工夫し利用者様に楽しく健やかにお過ごしいただくように努めます。
行事	12月フラダンスボランティア 12月、2月、3月ウクレレボランティア 3月おやつレク。

<2階茜ユニット>

平成29年度目標	①個別ケアに基づき、日々の生活を楽しく過ごして頂ける環境づくりを行っていきます。 ③ 職員間の情報共有に努める為に申し送り事項を確認します。
取り組み評価	職員の退職、入れ替わりが続き人員不足の中、出来る限りご利用者のニーズを把握することに努めました。又、情報共有を図るために申し送り方法を工夫して簡潔に正しく申し送る様にいたしました。
反省点と要因	・人員不足もありユニット会議をあまり開くことができませんでした。 ・居室担当の仕事である居室の清掃、衣類の整理等が中々できませんでした。
次年度課題	・定期的にユニット会議を開催し情報共有を図り、統一したケアを行ってまいります。 ・ユニット内の掲示、飾り付けを工夫し利用者様に楽しく健やかにお過ごしいただくように努めます。 ・居室担当をしっかりと割り振りご利用者が生活しやすい環境を作っていきます。
行事	12月フラダンスボランティア 12月、2月、3月ウクレレボランティア 3月おやつレク。

<3階青ユニット>

平成29年度目標	・ユニット職員の業務環境を改善し、ご利用者にも職員にも優しい環境づくりを目指す。
----------	--

取り組み評価	・ユニット内の環境整備を行い、ご利用者の同線の配慮や職員の働きやすい環境作りを行なった。
反省点と要因	・多動なご利用者や転倒の危険のあるご利用者等でなかなか自席が定まらず、環境作りが徹底して行えていなかった。
次年度課題	・職員のモチベーション並びスキルアップできる環境作りを目指す。 ・暮らしの継続を目指す。ユニット会議を月1回行い、情報の共有に努めます。 ・業務に対する積極的な動機付けとなる研修を行ないます。
行事	12月フラダンスボランティア 12月、2月、3月ウクレレボランティア

<3階紫ユニット>

平成29年度目標	・職員間で十分なコミュニケーションを図り、ご利用者の生活環境の向上を目指す。
取り組み評価	・ユニットリーダーを中心にご利用者に関わるケアの統一や環境整備など行いご利用者、職員共により良い生活環境を整えることが出来た。
反省点と要因	・居室担当を中心にご利用者の状態の変化などの申し送りが出来ておらず、職員間の情報共有や迅速な対応が行なえていなかった。
次年度課題	一人一人のご利用者様の心と身体に寄り添う介護を目指します。 職員の働きやすい環境を目指し、介護技術、認知症、声掛け対応など専門的知識を行なえる環境を目指します。
行事	12月フラダンスボランティア 12月、2月、3月ウクレレボランティア

(4) 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）

<3階緑・茜ユニット>

平成29年度目標	・年間平均稼働率95%を目標にし、各居宅介護支援事業所や医療機関等との連携を図ります。また医療依存度の高い方の積極的な受け入れ体制も整えつつ、緊急受入れも積極的に行います。
取り組み評価	・新規の方の受け入れにあたり、事前に詳細なカンファレンスを行い、極力ご利用者にストレスのない生活環境を整えることが出来ました。

	・在宅生活に支障をきたさないよう、自立支援を念頭にした援助を行うことが出来ました。
反省点と要因	・忘れ物の件数は前年に比べ減ってはきていますが、依然として無くなりませんでした。荷物チェック表の使用方法に問題はないかを再度検討し、引き続き忘れ物をなくすことに努めます。 ・ご利用者のプライバシーや尊厳に配慮した声かけが徹底できていませんでした。
次年度課題	・ユニット会議の定期的な開催を目指し、その中でご利用者一人一人に寄り添った声掛けや対応の方法を話し合います。 ・拘束や虐待防止などに関して、ユニット内の職員への啓発に努めます。
行事	① 季節を感じることでのおやつレク（月一回） ② ケーキバイキング（週一回）

年間延利用日数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	男性	8	6	10	6	2	3	9	2	4	0	0	0	50
	女性	6	21	12	15	28	8	9	20	22	22	28	18	209
要介護2	男性	5	13	5	5	6	5	9	13	11	17	9	7	105
	女性	59	62	50	61	67	46	43	48	39	45	63	70	653
要介護3	男性	15	25	17	25	36	14	38	16	20	16	15	33	270
	女性	197	160	121	150	177	176	184	141	160	146	104	124	1840
要介護4	男性	91	111	128	127	125	115	125	111	109	84	78	97	1301
	女性	139	110	100	116	96	115	53	125	161	200	185	172	1572
要介護5	男性	22	17	1	0	0	0	0	0	1	2	8	10	61
	女性	60	78	107	112	112	93	72	67	49	57	56	53	916
要支援1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	4	6	9	0	0	0	0	0	0	0	19
要支援2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
小計	男性	141	172	161	163	169	137	181	142	145	119	110	147	1787
	女性	461	431	394	460	489	438	361	401	437	470	436	437	5215
合計		602	603	555	623	658	575	542	543	582	589	546	584	7002
空所人数		0	17	45	0	0	25	78	57	38	31	14	36	341

新規利用者実人数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	4	1	3	0	0	1	4	1	1	0	0	2	17
女性	3	6	4	1	4	2	2	2	4	1	3	1	33
合計	7	7	7	1	4	3	6	3	5	1	3	3	50

(5) 利用者の健康状況

月別入院者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
男	1	0	0	1	0	0	2
女	1	2	3	0	3	1	10
計	2	2	3	1	3	1	12
区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計
男	0	0	0	0	1	1	2
女	0	2	3	1	1	5	12
計	0	2	3	1	2	6	14

入院状況

No	性別	入院月日	症・病名	入院日数	再入所日	備考
1	女	4 / 10	左大腿骨頸部骨折・左手骨骨折	85日	7 / 3	
2	男	4 / 18	誤嚥性肺炎			入院のまま退所
3	女	5 / 9	腎不全		5 / 11	死亡退所
4	女	5 / 12	急性腎不全	29日	6 / 9	
5	女	6 / 5	左胸水			入院のまま退所
6	女	6 / 6	抜歯	1日	6 / 7	
7	女	6 / 15	肺炎・イレウス			入院のまま退所
8	男	7 / 12	呼吸停止	32日	8 / 12	死亡退所
9	女	8 / 2	気管支炎	14日	8 / 15	
10	女	8 / 6	誤嚥性肺炎			入院のまま退所
11	女	8 / 14	脱水			入院のまま退所
12	女	9 / 16	肺炎	21日	10 / 6	
13	女	11 / 11	脳梗塞			入院のまま退所
14	女	11 / 15	腎機能低下			入院のまま退所

15	女	1 2 / 1 1	尿路感染			入院のまま退所
16	女	1 2 / 1 2	尿路感染	2 4 日	1 / 5	
17	女	1 2 / 2 0	認知症	6 5 日	3 / 2 6	
18	女	1 / 1 9	肺炎・心不全	3 3 日	2 / 2 1	
19	女	2 / 1 2	尿路感染・敗血症	1 2 日	2 / 2 4	
20	男	2 / 1 4	イレウス	1 3 日	2 / 2 7	
21	女	3 / 7	統合失調症			
22	女	3 / 1 2	右上腕骨骨折			
23	男	3 / 1 3	抜歯	1 日	3 / 1 4	
24	女	3 / 1 3	うっ血性心不全	1 3 日	3 / 2 6	
25	男	3 / 2 0	膀胱癌			入院のまま退所
26	女	3 / 2 9	嘔吐			
27	女	3 / 2 9	左大腿骨頸部骨折			
28						
29						
30						

疾患別

平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在

No	系	症 ・ 病 名	男	女	計 (人)
1	悪性腫瘍		4	3	7
2	精神・脳神経	精神障害・知的障害	2	8	1 0
3		認知症	3	3 0	3 3
4		自律神経失調症	0	0	0
5		パーキンソン症候群	0	3	3
6	消化器系	十二指腸潰瘍	0	0	0
7		肝機能障害	0	1	1
8		便秘症	1 0	5 8	6 8
9	腎機能障害	腎不全	0	2	2
10	心臓・血管系	心疾患・不整脈	0	1 8	1 8
11		高血圧症	4	4 2	4 6
12		脳梗塞	2	1 8	2 0
13	血液・造血系	貧血	3	9	1 2
14	免疫系	関節リウマチ	0	1	1
15		骨粗鬆症	0	3	3

16	骨・関節系	腰椎圧迫骨折	3	6	9
17		変形性膝関節症	0	2	2
18		脊髄損傷	1	0	1
19		大腿骨頸部骨折	1	1 5	1 6
20	内分泌・代謝系	糖尿病	2	9	1 1
21		高脂血症	0	3	3
22	眼系	白内障	1	6	7
23		緑内障	1	1	2
	呼吸器系	肺炎	2	9	1 1

(6) サービスの質の向上

ア 相談課

平成29年度目標	・入退所の効率化を行い、社会資源の活用を地域の方々へ提供してまいります。 ・医療依存度の高いご利用者の受入れが出来るような環境整備に努めてまいります。
取り組み評価	・平成28年度より空所から入所までの期間で平均3.8日短縮されています。ただ、もう少し善処できる部分があるため、引き続き同様の目標を立て、平均で7日短縮できるよう努力していきます。 ・他部署との連携がうまくいかず、医療依存度の高い利用者の受入れは出来ていません。引き続き継続する必要があります。
反省点と要因	・長期入院者の退所への判断や、突然の死亡退所などの準備不足があり空所期間の大幅な短縮には繋がりませんでした。次年度は次期入居候補者の選定と入退所判定会議、家族への打診を今年度よりも早めに行い、待機者への入所時期調査を行い、正確な待機者を把握するようにいたします。
次年度課題	・空所期間の短縮さらに進めていきます。29年度より3.2日短縮し、28年度より7日短縮していきます。それに伴い、待機者数も確保するため、病院、居宅介護支援事業所、老健等へ営業を行い、施設の認知度を向上していきます。

次年度の取り組み	・病院・老健・居宅介護支援事業所への営業活動を行う。 ・待機者調査を行い、実際の待機者数の把握に努めます。 ・各ユニット一人ずつの次期入居者を選定し、健康診断を取りに行っていただく状態での待機を進めていきます。 ・他部署との連携を深め、医療依存度の高い利用者の受入れを進めていきます。
----------	---

イ 機能訓練

平成29年度目標	ご利用者の身体・精神機能の維持が出来る様、個別機能訓練計画書に沿った運動機会の提供をしていきます。
取り組み評価	・個別機能訓練計画書に基づいた日常生活リハビリは継続して行えています。 ・運動の希望のあるご利用者に対して継続して運動の機会を提供していく事が出来ました。また同じ目標を持つ数名のご利用者が運動を共にする事でモチベーションが上がり活気が見られる様子も見受けられる様になりました。 ・認知棟については様々な要因があり集団での体操を実施出来ていませんが、方法を検討しながら身体・精神機能の活性化のための関わりを増やしていく必要性を感じます。
反省点と要因	・姿勢保持や個別機能訓練の必要性について、十分に介護職員の理解を深める事が出来ていませんでした。個々の個別機能訓練プログラム等の意義についての説明をしっかりと行っていく必要性を感じます。
次年度課題	介護職員に対しても、個別機能訓練の必要性を十分に理解してもらいながら機能訓練が継続出来る様にしていきます。
次年度の取り組み	・介護職員と連携を深め、個別機能訓練計画書が更新された際には説明を行い意識を持ってプログラムを実施出来る様にしていきます。 ・各フロアまた個々のご利用者に合った関わりを増やしていけるよう、プログラムを検討していきます。

ウ 食事の状況

平成30年3月31日現在

主 食	人数	副 食	人数	療 養 食	人数	備 考
米 飯	20	常 食	9	減 塩 食	9	
粥	53	一 口 大	16	貧 血 食	9	
ミキサー粥	10	刻 み	27	脂 質 異 常 食		
パ ン		極 刻 み	25	E C 食	4	糖尿病
パ ン 粥		ミキサー	8	腎 臓 食		
計 (人)	85	計 (人)	85	計 (人)	22	
経口維持加算Ⅱ				84		

3 委員会報告

ご利用者の生活向上に向けて、各職員が委員会活動を行いました。委員会活動は、委員会ごとの報告としてまとめました。

(1) 安全衛生委員会

平成29年度目標	年間計画にそって委員会を開催します
取り組み評価	月1回の委員会の開催と個人面談の実施ができた 担当委員の出席が難しかったが、不在時はユニットから代理出席があり、委員会がスムーズに開催できた
反省点と要因	職場のストレスについての取り組みが少なかった ストレスチェックだけで終わってしまった
次年度課題	ストレスのない職場作りを今一度考えていく
次年度の取り組み	年間計画を立てたのでそれに沿って行っています

した。

(2) 介護サービス委員会

ア 食事・栄養担当

平成29年度目標	「口から食べること」を通して、ご利用者1人ひとりの栄養状態を適正化し、介護予防や生活援助の質の向上に貢献します。 ・栄養ケア計画書に基づき、利用者の口から食べる楽しさを支援します。 全長期利用者90名に栄養マネジメント加算を算定し、栄養アセスメント、栄養ケアプランを作成して、実施し、モニタリングします。 ・ご利用者個人の嗜好も考慮に入れながら、適切な嚥下状態、体重変化に応じた食事を提供します。 ・医師と連携し、個別の疾患に応じた療養食を提供します(療養食加算)。 ・歯科医師と連携し、嚥下評価を実施し、嚥下状態に適した食事を提供します。多職種によりご利用者の食事の観察を行います(経口維持加算)。 ケアカンファレンスへ参加し、他職種と連携し、ご利用者の食事面だけでなく、生活面の積極的な把握に努めます。 ・給食委託業者と連携し、季節感を楽しめるような食事を提供します。衛生管理を徹底します。
取り組み評価	施設内の栄養・食事に関する課題を多職種で共有できました。

反省点と要因	報告・連絡・相談の連携がスムーズにいかないことがありました。 書式や細かな業務の効率化を引き続き検討いたします。
次年度課題	他職種と連携を取りながら、ご利用者のサービスの安定に努め、安心して生活していただけるよう努めます。
次年度の取り組み	5月 食中毒予防勉強会を開催します。 毎月 季節の行事食の提案・提供～掲示物等工夫し、認知度を高めていきます。 その他 食事・栄養における課題について取り組みます。

イ 排泄担当

平成 29 年度目標	・排泄アセスメントの作成、見直しを継続的にを行います。(年 2 回) ・排泄ケアの質の向上を目指します。
取り組み評価	・皮膚トラブルに応じた排泄ケアは実施できました。 ・利用者のプライバシーに配慮したケアが実施できました。 ・年 2 回の排泄介助研修を実施できました。
反省点と要因	・排泄アセスメントの意識が低く、より個別性に意識した排泄介助の実施が今後必要であると考えました。
次年度課題	・個々のご利用者に合わせた排泄介助の頻度となっている排泄表の作成。
次年度の取り組み	・各ユニットにおいて個々の排泄リズムが考慮された排泄介助の頻度を設定する。 ・排泄量に合わせたパットの選定等によるコスト意識の向上。

ウ 入浴担当

平成 29 年度目標	・ご利用者の身体機能を考慮した入浴形態の見直しを継続的にを行います。 ・ご利用者が安心して入浴できるよう、入浴技術の向上を目指します。
取り組み評価	・しょうぶ湯・ゆず湯を実施することにより、入浴時に季節感を感じていただきました。 ・ご利用者の A D L の変化に合わせて迅速に入浴方法を変更できました。
反省点と要因	・他職種との連携が不十分なところがあり、連絡が徹底されていない場面が時折みられていました。

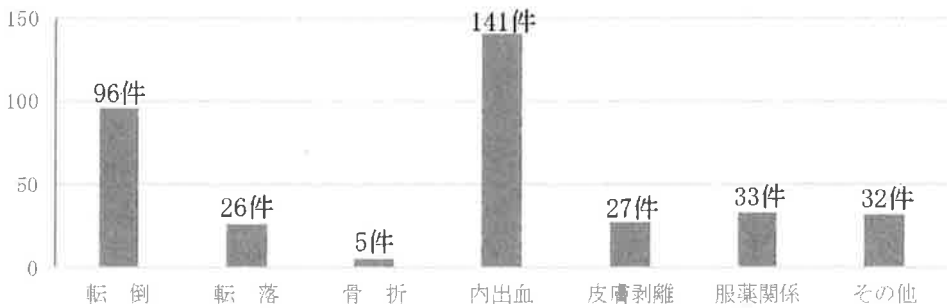
次年度課題	・入浴介助者と多職種との連携強化に努めます。 ・経年劣化した入浴介助物品の入替検討します。 ・入浴関連に関して他部署への報告、連絡、相談の意識を向上します。
次年度の取り組み	・入浴介助に必要な物品の補修及び入替の検討します。 ・浴室内環境のチェック及び再整備。 ・

エ 感染症・褥瘡予防

平成29年度目標	・施設内での褥瘡ゼロ名に向け取り組んでいきます。 ・感染症に関しての知識向上に向け努めていきます。
取り組み評価	・医務、機能訓練指導員と連携を図り、ご利用者様に見合った体位交換を実施して이었습니다。 ・施設での感染症対策のやり方等、資料を用意し統一して이었습니다。
反省点と要因	・人員不足もあり研修に参加できない職員もいました。 ・ご利用者様に合った、体位交換、ポジショニング等、やり方が統一されていなかった事がありました。
次年度課題	・看護師、機能訓練指導員と共に連携を図り、褥瘡予防のポジショニングなどしっかり行っていく。 ・外部研修に参加して褥瘡、感染の知識、技術向上に努め内外の研修にしっかり取り組んでいく。
次年度の取り組み	・年2回以上の研修の実施。 ・感染症対策物品の管理。 ・10月～3月の職員の検温実施の継続。 ・うがい手洗いの徹底。

(3) 人権擁護委員会

平成29年度目標	【苦情解決部門】 苦情対応フローチャートに基づいた対応を行います。また苦情の未然防止のためのプログラムに基づいた研修を継続的に実施いたします。 【事故防止部門】 事故報告書及びヒヤリハット報告書から得たケースを分析し、同様の事故発生を未然に防止する。 【人権擁護部門】 ご利用者の尊厳を守るケアを行います。
----------	---

取り組み評価	【苦情解決部門】 今年度挙げられた苦情については 7 件となり、苦情解決第三者委員会を開催し、苦情解決に向けた検討の場を 3 度開催することができました。また、館内に設置している「皆様の声」については年間通して 1 件でした。 【事故防止部門】 人権擁護委員会を定期的に開催し、各階で発生した事故について傾向や再発予防策を話し合い、その階だけでなく他階でも取り入れられるようにしました。 【人権擁護部門】 身体拘束及び高齢者虐待防止に関する内部研修を行うことができました。 事故件数 全360件  <table border="1"> <thead> <tr> <th>事故の種類</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転倒</td> <td>96件</td> </tr> <tr> <td>転落</td> <td>26件</td> </tr> <tr> <td>骨折</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>内出血</td> <td>141件</td> </tr> <tr> <td>皮膚剥離</td> <td>27件</td> </tr> <tr> <td>服薬関係</td> <td>33件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>32件</td> </tr> </tbody> </table>	事故の種類	件数	転倒	96件	転落	26件	骨折	5件	内出血	141件	皮膚剥離	27件	服薬関係	33件	その他	32件
事故の種類	件数																
転倒	96件																
転落	26件																
骨折	5件																
内出血	141件																
皮膚剥離	27件																
服薬関係	33件																
その他	32件																
反省点と要因	今年度の苦情の件数は昨年度と比較して減少している。しかし、介護記録の書き換えがありました。その後確認作業に大変な時間を要してしまったことや第三者委員会への報告にも時間が掛かり、苦情受付責任者が受け付けてから第三者委員への報告及び改善に向けてまでに時間がかかりすぎてしまいました。事故件数については内出血が全体の半数近くまで挙げた。ご利用者の状態変化も理由としては挙げられるが、職員でも介護方法の統一が図れていないケースもあります。事故報告書の作成については、発見状況や現場を再現し、どこに原因が存在するのか、どのようにすれば予防できるか等をカンファレンスを通して話し合いの場を積極的に設けることができました。																
次年度課題	【苦情解決部門】 ご利用者及びご家族からのご意見やご要望に迅速かつ適切な対応を行い、苦情等への発展にしないように努めます。また、「苦情・相談解決フローチャート」に基づき、適切に対応し苦情の早期解決に努めます。 【事故防止部門】 発生した事故やヒヤリハットをユニット単位ではなく施設全体で把握し、類似事故の発生を防ぎます。また、身体介助の方法や生活環境の整備をおこないます。 【人権擁護部門】 ご利用者の尊厳を守る支援をおこないます。																
次年度の取り組み	【苦情解決部門】 ・ご利用者及びご家族からのご要望やご相談に対しての他職種での検討や対																

	応をおこないます。 ・苦情・相談解決フローチャート」に基づいた対応の内容や経過について委員で情報共有し、各職員への周知徹底を図ります。 ・苦情受付担当者へ苦情内容の迅速な報告と苦情解決担当者との連携により適切な対応をおこないます。 ・苦情解決第三者委員へ苦情内容の報告と相談体制を構築します。 ・みなさまの声の定期的な集計と掲示をおこないます。 【事故防止部門】 ・ご利用者の身体状況の変化がある場合には、他職種がご利用者の状況変化の把握に努め、ご利用者へ負荷のかからないような介助方法を検討し対応します。 ・事故予防等の研修を企画及び開催します。 ・事故が発生する前の小さな気づきを共有し、事故予防に努めます。 【人権擁護部門】 ・適切なケアと不適切なケアの区分けを明確化させ、普段の支援や関わりの中で早期発見及び報告、対応に努めます。 ・「するケア」ではなく、「(自分自身が) 受けたいケア」を考える機会を作り、ご利用者の立場に立った介護をおこないます。
--	--

(4) 総務委員会

ア 防災

平成29年度目標	全職員の防災・減災への意識の向上について総務委員会を通じて働きかけその都度、災害を未然に防ぐための情報を発信していきます。
取り組み評価	・1年間を通じて避難訓練、消火訓練を各2回づつ実施し、少しずつではあるが消火器や散水栓の取り扱いが慣れてきました。 ・夜間想定避難訓練においては、仮想火災ユニット及び隣接ユニットの避難が、仮想夜勤体制のリレー形式による避難誘導にて大幅に短縮されまた、通報訓練でも、的確に内部の詳細が報告され、大和市消防本部司令室及び大和市消防本部予防課担当官より一定の評価が得られました。
反省点と要因	・昨年度10月22日、「台風21号」の影響による境川の増水、及び3月9日深夜の局地的集中豪雨にて、再度増水し氾濫危険水位まで上昇し水害の危険であったため1階の利用者を階上階に全員避難誘導し水害からまぬがれた。なかでも10月22日は15時に避難開始しベッドや身の回りの品々を階上階に上げ、一晚その場所で過ごしていただきました。 翌朝朝食後まで約17時間程度、ご利用者に不便な思いをさせてしまい今後に活かさなくてはと強く感じました。 3月9日の深夜の場合は、幸いにも夜勤者の中にリーダー職が5名勤務していて管理宿直者も含め迅速な判断・行動が出来たが常にこのようなメン

	バーではないためこの経験を活かしていきます。 ・今年の1月22日に4年ぶり大雪が降りショートステイの送迎や電車が遅延して職員の出勤・退勤に影響がありました。同時に施設正面駐車場の雪かきにも相当数の人員が必要であったためこの件についても併せて考えていかなければなりません。
次年度課題	・上記の様な、水害の危険にいつさらされるかわからないため常日頃からの全職員への周知徹底を目指し近隣に住んでいる職員への応援要請も行えるように具体的な対応について検討していきます。
次年度の取り組み	・5月の防災訓練において、起震車による大地震体験を行っているが、今年度は加えて火災想定時の煙体験（無害）を訓練メニューに加え火災時の煙の恐さを体験していきます。 ・昨年度はマンパワー不足の要因もあり「甲種防火管理者」講習の受講者が、0名でありましたが今年度は4～5名を取得に向けて働きかけていきます。 ・新たにリーダーになる職員や夜勤リーダーになる職員には「上級救急救命」講習の参加を促していきます。

イ 物品

平成29年度目標	・毎月棚卸しを行い、物品（消耗品）の不足が無いように管理・徹底していきます。 ・リネン室内の物品（消耗品）管理に努めます。 ・出来る限りの消耗品の節約に努めます。
取り組み評価	・リネン室内の消耗品が残り少なくなってくると職員間で声を掛け合い、在庫が無くなるという事態は予防できました。
反省点と要因	・館内数箇所トイレや洗面台の詰まりトラブルが発生し業者に依頼したことが数件あった。要因としてトイレは、多量のトイレットペーパー流しやペーパータオルを誤って流してしまった事。洗面台は、髪の毛や食べかすが主であったため、配水管クリーナーの励行が必要であり促していきます。
次年度課題	・昨年度、リネン室内で業務用ボトルの蓋の閉め方があまかったためにリネン室内の棚や床が洗剤で汚染されてしまいました。今後は、その様な事が起こらないよう全館職員に周知していきます。
次年度の取り組み	・毎月、消耗品の棚卸しを実施し不足品の無いように管理していきます。 ・リネン室内の衛生管理に努めます。 ・必要物品の選定を行うと同時に、価格調査も実施しコストダウンにつなげていきます。

(5) 施設活動委員会

ア 研修

平成29年度目標	・内部研修を充実させ、職員全体の援助技術及び技術の向上だけでなく、意識の向上にも取り組んでいきます。 ・人権擁護に関わる研修に特に力を入れていきます。 ・適宜外部研修にも積極的に参加していきます。
取り組み評価	・内部研修については概ね予定通りに実施できました。 ・人権擁護に関わる研修は神奈川作成の自己点検シートを活用し、研修を実施いたしました。
反省点と要因	・人員不足もありシフトを回すことに注力してしまい、外部研修の参加が十分ではありませんでした。 ・研修への参加意識の個人差が多く、研修参加者も特定の者が多くなってしまい、参加率にばらつきがありました。
次年度課題	・研修の参加意識の向上を図っていきます。 ・外部研修の参加希望がある場合には考慮していきます。 ・人権擁護に関わる研修を継続的に実施していきます。
次年度の取り組み	・経験能力等を考慮した外部研修の参加機会を、シフト調整等により増加させる。 ・職員の伝達研修の機会を設けます。

平成29年度研修実績

研修種別	研修内容	参加者
【内部研修】 4月14日 「職場のマナー・接遇について」 講師：杉本 薫	職場のマナー 接遇研修 講義	施設職員 15名
4月21日 「職場のマナー・接遇について」 講師：杉本 薫	職場のマナー 接遇研修 講義	施設職員 8名
5月12日 「食中毒について」 講師：井内 澄子	食中毒研修 講義	施設職員 12名
5月19日 「食中毒について」	食中毒研修	施設職員 9名

講師：井内 澄子	講義	
6月2日 「排泄介助について」 講師：(株) 光洋 ケアコンシェルジュ 梅田氏	排泄介助研修 実勢・講義	施設職員 12 名
6月9日 「排泄介助について」 講師：(株) 光洋 ケアコンシェルジュ 梅田氏	排泄介助（オムツ、パットの正しい使い方）研修 実勢・講義	施設職員 11 名
6月26日 「口腔ケアについて」 講師：三國歯科医師 高橋歯科衛生士	口腔ケア研修 ケースワーク及び講義	施設職員 6 名
9月4日 「高齢者虐待防止、身体拘束禁止について」 講師：杉本 薫	高齢者虐待防止・身体拘束禁止研修 講義	施設職員 4 名
9月6日 「高齢者の摂食・嚥下障害について」 講師：弘中祥司教授	高齢者の摂食・嚥下障害についての研修 講義	施設職員 37 名 事業所等関係者 15 名
9月22日 「高齢者虐待防止、身体拘束禁止について」 講師：人見 伸吾	高齢者虐待防止・身体拘束禁止研修 講義	施設職員 14 名
10月10日、11日、16日 「高齢者虐待防止、身体拘束禁止について（新人職員対象）」	高齢者虐待防止・身体拘束禁止研修 講義	施設職員 3 名

講師：杉本 薫		
10月12日 「感染症対策について」 講師：篠崎 宏幸	ノロウイルス対策の吐物処理方法等についての研修 講義	施設職員 12名
11月20日 「移乗介助について ～持ち上げない介護 技術～」 講師：田口 久美子氏	移乗介助研修 講義・実践	施設職員 15名
12月25日、1月3日 「高齢者虐待防止、身体拘束禁止について (新人職員対象)」 講師：杉本 薫	高齢者虐待防止・身体拘束禁止研修 講義	施設職員 2名
1月11日 「認知症の理解について」 講師：杉本 薫	認知症に関する研修 講義	施設職員 12名
2月28日 「看取り介護について」 講師：片桐春美	看取り介護研修 講義・グループワーク	施設職員 10名
2月28日 「高齢者の摂食・嚥下障害について」 講師：弘中祥司教授	高齢者の摂食・嚥下障害についての研修 講義	施設職員 33名 事業所等関係者 10名
3月17日 「移乗介助について」 講師：田代 さおり氏	移乗介助研修 講義・実技指導	施設職員 11名
3月17日		施設職員 20名

「防災について」 講師：多田 宏之 篠崎 宏幸 土屋 誠	防災内部研修 講義	
【外部研修】 6月2日 「平成29年度第1回 厚木保険福祉事務所 大和センター介護保 険施設栄養士連絡会」	災害時の備蓄食について	井内澄子
6月2日 「平成29年度介護保 険改正について」 主催：神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護保険改正について	小泉 昇 杉本 薫
7月14日 「苦情解決研修会（基 礎編）」 主催：かながわ福祉サ ービス運営適正化委 員会	苦情の捉え方について	齋藤 渉
9月27日 「平成29年度特定給 食施設等栄養管理講 習会」 主催：厚木保険福祉事 務所 大和センター 保健福祉課	看取り対応になったご利用者に対して の食事ケアについて	井内 澄子
1月11日 「平成29年度苦情解 決研修会」 主催：かながわ福祉サ ービス運営適正化委 員会	苦情対応の理解について	小泉 昇 人見 伸吾

12月5日 「介護報酬改定の議論と同行」 主催：神奈川県高齢者福祉施設協議会	介護報酬改定の議論と動行について	小泉 昇
12月12日 1月19日 1月26日 神奈川県社会福祉法人の経営労務管理体制強化研修 主催 神奈川県	「新しい時代の社会福祉法人の経営セミナー」 ① 会計基準の概要 計算書類と内部取引の相殺、個別処理 ② 監査の種類とガイドライン、専門家支援の制度概要と具体的チェック項目の開設 ③ 社会福祉充実残額、資金の使途制限、労務手続と労務管理	小泉 昇
2月24日 「第19回 全国抑制廃止研究会 東京大会」 主催：特定非営利活動法人 全国抑制廃止研究会	高齢者虐待防止施策の動向について 抑制死の実例から学ばれること 高齢者サービスにおけるコミュニケーション・接遇を振り返る～スピーチロックに気づく～ 高齢者虐待の実態とリスクマネジメント	堀 真由美 杉本 薫
3月8日神奈川県介護支援専門員協会主催 介護保険制度改正説明会（海老名会場）	平成30年度介護保険制度改正の要点	小泉 昇 人見 伸吾
3月13日 「ICFの視点に基づく認知症の人への介護過程の展開～ご本人の想いがみえた時にケアが変わる～」 主催：主催：神奈川県	ICFの視点に基づく認知症の人への介護展開について	小泉 亜希子

高齢者福祉施設協議会		
3月20日 「看護・介護共同研修」 主催:神奈川県高齢者福祉施設協議会	高齢者のメンタル・フィジカルアセスメントについて 看護と介護が連携するために～知っておきたいバイタルの理解に必要な医学的基礎知識～について	土屋 誠
3月27日 神奈川県介護支援専門員協会主催 介護保険制度改正説明会（横浜会場）	平成30年度介護保険制度改正の要点 施設介護支援専門員向け研修	小泉 昇

イ 行事企画

平成29年度目標	・年間行事をベースに、ご利用者に季節を感じていただけるような行事を企画していきます。
取り組み評価	・季節感のある行事を企画し、概ね達成できました。
反省点と要因	・委員会の日にシフトを合わせることが出来ず委員会当日に職員が集まらなかったため会議を開催することが出来ない月が数回ありました。それにより喫茶等の企画が遅れ企画書での他部署への伝達が遅れてしまいました。
次年度課題	・企画書の早めの提出を心掛けていきます。 ・今年度より他職種が委員として参加するため、伝達が円滑に進むようにしていきます。

ウ ボランティア活動

	内 容
傾聴ボランティア	ボランティア 6 名 延べ 104 日 利用者 250 名
介護相談員	毎月 1 名 延べ 10 回 32 名
園芸ボランティア	毎月 1 回 9 月より 7 回
庭園清掃	不定期 6 回
庭園散歩ボランティア	2 月より 5 回
ウクレレボラ	レレ・クレア 4 名 年 4 回
フラダンス	年 2 回
オカリナ	オカリナ演奏 年 2 回
きらきらみちゃん	カラオケ 年 1 回
みすず会	カラオケ 年 1 回
夢の会	カラオケ 年 1 回
バイオリンボラ	バイオリン演奏 年 1 回
大和市少年消防団	年 2 回 中学生グループ 小学生グループ
お花倶楽部	毎月 1 回 ご利用者 延べ 202 名参加
習字倶楽部	毎月 1 回 ご利用者 延べ 120 名参加

4 職員関係

(1) 職種別配置構成

平成 30 年 3 月 31 日現在

区 分		常 勤	非 常 勤	計
施 設 長		1		1
総 務 課		3	7	10
介 護 課		39	32	71
医 務 課	看護師等	5	4	9
	嘱託医師		3	
栄 養 課	管理栄養士	1		
	調理員			
相 談 課	介護支援専門員	5		
	機能訓練指導員	1		
	相談員	3		
計				

*総務課 非常勤 管理職者、清掃ワーカーを含む

(2) 資格取得構成

平成30年3月31日現在

区 分	常 勤		非 常 勤		計
	男	女	男	女	
介護福祉士	12	13	2	10	37
初任者資格	2	5		7	14
実務者研修資格	2	2			4
医師及び歯科医師			2	1	
看護師		3			3
准看護師		2		4	6
社会福祉士	1				1
社会福祉主事	6				6
介護支援専門員	4	3		1	8
管理栄養士		1			1
理学療法士		1			1
柔道整復師	1				1

(3) 実習・見学・講師派遣関係

<見学>

*以下の団体の見学の受け入れを行った。

依頼先	月	見学目的	参加者
大原学園	8月	施設見学	20名
大和東小学校	1月	施設見学	10名

<講師・委員派遣>

*以下の団体に職員を講師・委員して派遣した。

依頼団体	月	内容及び会場	派遣者名
柏木実業専門学校	7月	介護職員初任者研修	杉本 薫
テラスけあカレッジ	8月	職業人講話	杉本 薫
大原学園	9月	外国人就労について	小泉 昇
柏木実業専門学校	9月	介護職員初任者研修	杉本 薫
町田福祉専門学校	1月	成年後見制度について	小泉 昇
医療法人清心会	11月	苦情解決の実際	小泉 昇
柏木実業専門学校	11月	介護職員初任者研修	杉本 薫

柏木実業専門学校	1 月	介護職員初任者研修	杉本 薫
----------	-----	-----------	------

<実習>

*以下の機関の実習を受け入れた。

実習機関	実習時期及び延人数	実習資格
大和商業高等専修学校	6 月 1 9 ～ 2 0 日 2 名 6 月 2 2 ～ 2 3 日 2 名 9 月 4 ～ 5 日 2 名 9 月 7 ～ 8 日 2 名 9 月 1 9 ～ 2 0 日 2 名 9 月 2 1 ～ 2 2 日 2 名 1 0 月 5 ～ 6 日 2 名 1 0 月 1 0 ～ 1 1 日 2 名 1 0 月 1 2 ～ 1 3 日 2 名 1 0 月 2 3 ～ 2 4 日 2 名 1 0 月 2 6 ～ 2 7 日 2 名 1 2 月 1 2 日 1 名 合計 2 3 名	介護職員初任者資格
柏木実業専門学校	1 0 月 7 ～ 9 日 2 名	介護職員初任者資格
かながわ精神障害者事業者の会	1 0 月～3 月 4 名	就労実習